

**第3回（2003年度）佐治敬三賞は
「現代の音楽展2003 — 室内オーケストラの領域Ⅲ」に決定**

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤剛）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第3回（2003年度）受賞公演を「現代の音楽展2003 — 室内オーケストラの領域Ⅲ」に決定しました。

●選考経過

1. 応募のあった2003年実施公演について2004年1月12日（月・祝）東京・丸の内での東京會館において、選考委員8名により第一次選考を行った。
2. 引き続き3月16日（火）東京・千代田区紀尾井町のホテル・ニューオータニにおいて最終選考会を開催、選考委員8名により慎重な審議の結果、第3回（2003年度）佐治敬三賞に「現代の音楽展2003 — 室内オーケストラの領域ⅠⅠⅠ」が選定され、同日理事会において正式に決定された。

●賞金は200万円。

●選考委員は下記の8氏。

磯山 雅・伊東信宏・岡部真一郎・白石美雪
沼野雄司・根岸一美・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

「現代の音楽展 — 室内オーケストラの領域Ⅲ」は、充実したコンサートであった。現在脂ののっている中堅の作曲家兼指揮者の小鍛冶邦隆氏は、自身のよく書き込まれた意欲的な新作を初演し、さらに小山薫と福士則夫のそれぞれにユニークな作品を紹介した。しかしなんとといっても、コンサートの白眉は、最後に紹介された、小鍛冶の直弟子の新鋭、本田祐也氏の渾身の力を込めた作品と演奏であった。

本田氏は1977年生まれの音楽家で、東京芸術大学音楽学部の作曲家に学んだ。しかしながらこの大型新人の作風の特色は、アカデミズムとはほど遠く、西洋の現代音楽から日本のチンドン屋の音楽までを視野に置いて、柔軟しかも多様なエネルギーに溢れる音楽を作り出す点にある。

今回世界初演された『Chamber orchestra in CHING-DONG Stadium』は、本田氏の大胆な発想が、みごとに結実した作品と演奏で、聴衆は、その刺激的な音楽を十分に楽しむことが出来た。ステージの外にいる若い演奏家たちは、ステージに並んだ演奏家たちを挑戦するかのように、動き回りながら、熱い音楽空間を生み出していく。この本田氏の指導するグループ「チャンチキ トルネエド」の熱演と、ステージの下、指揮者の後ろに陣取った本田氏の指揮ぶりも注目に値する。

本田祐也氏は、現在の日本の音楽界の異色の大型新人と評価することができる。今回の斬新な作品と演奏は、今後の新たな展開を予感させるものである。佐治敬三賞にふさわしいコンサートであった。

<公演概要>

名称：「現代の音楽展2003 — 室内オーケストラの領域Ⅲ」

日時：2003年3月17日（土）19：00開演

会場：東京文化会館小ホール

曲目：小鍛冶邦隆：16奏者のための<ダブル・レゾナンス>（初演）

小山 薫：ロンド・アラベスク — 室内オーケストラのために — （初演）

福士 則夫：室内オーケストラのための「花降る森」（初演）

本田 祐也：Chamber orchestra in CHING-DONG Stadium（初演）

出演：東京現代音楽アンサンブルC O m e T

（フルート＝木ノ脇道元 オーボエ＝本田英輝 クラリネット＝菊地秀夫

ファゴット＝鹿野智子 ホルン＝竹内修 トランペット＝曾我部清典

トロンボーン＝村田厚生 チューバ＝尾崎光宏 打楽器＝神田佳子

ハープ＝篠田恵理 ヴァイオリン＝鈴木まどか、山口幸恵 ヴィオラ＝甲斐史子

チェロ＝長谷部一郎 コントラバス＝那須野直裕 ピアノ＝黒田亜樹）

共演：チャンチキ トルネエド

（指揮＝本田祐也 ピッコロ＝斎藤寛 クラリネット＝井上梨江 サクソフォン＝

鈴木広志、東涼太、江川良子 トランペット＝佐藤秀徳 トロンボーン＝今込治

チューバ＝大熊健司、木村仁哉 アコーディオン＝大口俊輔 打楽器＝池野ひとみ、

野本洋介、渡邊理恵 他）

以 上

(ご参考)

佐治敬三賞について

(財) サントリー音楽財団(理事長・堤剛)は、故・佐治敬三(元サントリー株式会社社長、元サントリー音楽財団理事長)の功績を記念して、2001年度(平成13年度)から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団(現サントリー音楽財団)を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

これまでの受賞公演は以下のとおりです。賞の詳細は別紙をご覧ください。

第1回(2001年度)

「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」2001年8月31日

横浜みなとみらいホール

第2回(2002年度)

「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ・リサイタルホール

— 記 —

1. 名 称 「サントリー音楽賞 佐治敬三賞」
2. 選考対象 毎年1月1日から12月31日の間に国内で実施された日本人を主体とする音楽公演で応募のあったものが対象になります。清新、独自、冒険の意欲、あるいは若々しさに満ちた企画であり、かつ公演成果の水準の高いすぐれたものを選定します。
3. 選考方法 応募のあった公演について審査を行い、翌年3月の佐治敬三賞最終選考会で受賞公演を選定、発表します。
4. 選考委員 選考はサントリー音楽賞選考委員により行われます。
*第3回(2003年度)佐治敬三賞の選考委員は、磯山雅、伊東信宏、岡部真一郎、白石美雪、沼野雄司、根岸一美、船山隆、三宅幸夫の各氏です。(50音順、敬称略)
5. 賞 賞状、賞金200万円
6. お問い合わせ先 サントリー音楽財団 〒107-8430 東京都港区元赤坂1-2-3
電 話 (03) 3589-3694
FAX (03) 3589-5344
<http://www.suntory.co.jp/culture/smf/>

第4回(2004年度)「佐治敬三賞」応募について

2004年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2004年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2004年(平成16年)7月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。
- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはFAXにてサントリー音楽財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。
- ・応募期間 2004年4月1日から5月31日

以 上